「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議サイドイベント
国光外務副大臣
歓迎挨拶（和文）

ヴィエット議長、
スラウビネン大使、
中満次長、
御列席の皆様、

本日は、日本政府主催の「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議のサイドイベントにお越しいただき、誠にありがとうございます。

戦後最も大きな構造的変化を受けて、国際社会の分断と対立が深まり、我々の共通の目標である「核兵器のない世界」に向けた道のりは、一層厳しさと不透明感を増しています。だからこそ、核兵器国と非核兵器国の双方の参加を得た対話と取組が不可欠です。

2022 年、こうした強い思いから、我が国は、核兵器国と非核兵器国の双方から、核軍縮等の専門家 15 名を集め、国際賢人会議を立ち上げました。委員の皆様は、様々な国籍・専門性・経歴を持つ方々でいらっしゃいます。皆様には約 3 年間、計 6 回の対面会合を含め、真摯かつ闊達な議論を行っていただきました。

2026 年核兵器不拡散条約（ＮＰＴ）運用検討会議に向けて取りまとめられた提言は、様々な考えや意見の相違を超克した、まさに私たちの集合知とも呼べるものです。不透明感が増し、不安定な国際情勢において、私たちの共通の目標である「核兵器のない世界」へ続く道を照らしていく光となるものであります。

人類の叡智が原子力を発見するほどの力を持っているのであれば、核兵器のない世界へと私たちを導く力も持っているはずです。私たちがいるここマンハッタンは、核兵器開発計画の発祥の地です。同時に、冷戦当時のグローバルな核廃絶運動の震源地でもありました。アッパーウェストには広島で被爆した親鸞聖人像が、ここ国連本部には長崎で被爆した聖アグネス像が置かれ、共に被爆の実相と市民の祈りを静かに来訪者に伝えています。

昨年、世界は広島・長崎への原子爆弾投下から 80 年の節目を迎えました。私が通った広島の高校、そして長崎の医学部も当時多くの犠牲者を出しました。あのような惨禍を二度と繰り返してはならない、これは被爆者の皆様の痛切な願いでもあります。人類の叡智を善く活かすのは人類の道義心であり、意志であります。

ここマンハッタンにおいて改めて、核兵器の終焉に向けて叡智を結集していくことを誓いましょう。

最後に、タンザニアのニエレレ初代大統領はかつて、意志とその実現が同時に実現するのは、人間の行動の本質ではないと語ったことがあります。「人間の行動において、何かを行う意志とその行動の達成の間には進展が必要不可欠で、意志の後に必要なのは最初の一歩である」と述べられたそうです。

私たちは、核兵器国と非核兵器国を交えた取組の最初の一歩を直ちに見いださなければなりません。我が国は唯一の戦争被爆国として、被爆の実相への理解を広め、現実的かつ実践的なアプローチに対する理解を深めることに取り組むと同時に、世界各国の皆様とともに、ＮＰＴ体制を維持・強化するための取組を主導していく決意であることを改めて表明して、私からの挨拶とさせていただきます。

御静聴ありがとうございました。

（了）